

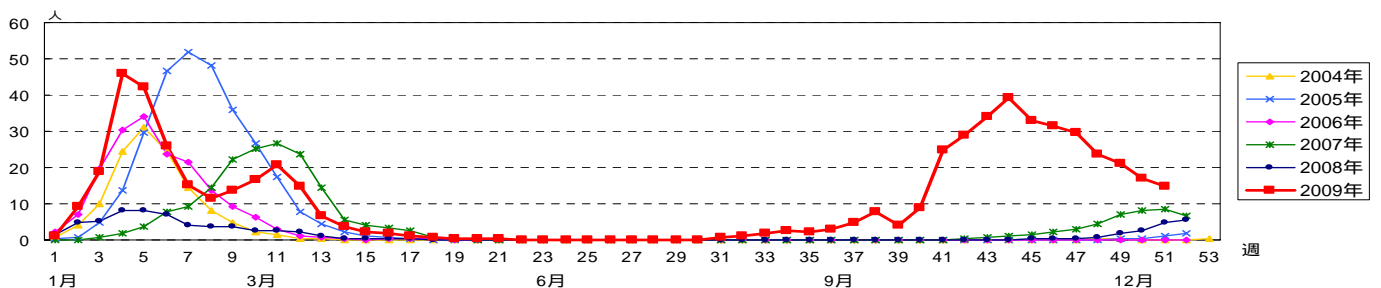
横浜市インフルエンザ流行情報 11 号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

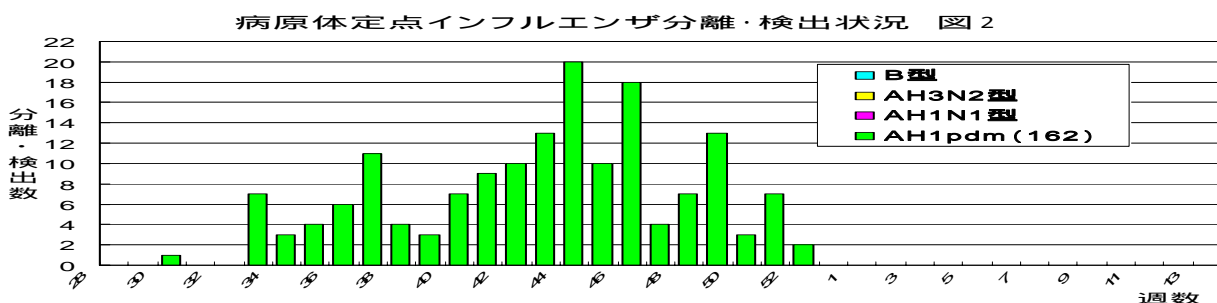
トピックス 流行状況は、7週続けて低下しています。 季節性インフルエンザは今シーズンでは未だ検出されていません。

- 市内流行状況については、第 44 週(10 月 26 日からの週)には「定点医療機関あたりの患者報告数」(以下略す)が 39.18 ですが、7 週続けて漸減し、第 51 週(12 月 14 日からの週)は 14.83 でした(図1)。
- 行政区別情報では、定点あたり 20 を越えた区は、瀬谷区 23.00、磯子区 21.86 のみで、定点あたり 10 を下回った区は鶴見区 7.10 と中区 8.50 でした。
- インフルエンザの病原体検出状況は、流行の目安を超えた辺りから、すべて新型インフルエンザ(AH1pdm)のみです(図2)。インフルエンザウイルスの他に RS ウイルス、コクサッキーB4、ノロG が検出されています。
- 定点医療機関にご協力いただいている市内迅速診断キットの調査ですが、第 51 週では、A 型が 1600 件、B 型が 8 件、A 型 B 型共に陽性が 3 件でした。B 型の検出状況につきましては、常に一定程度の報告数が見られていて、今回も特に B 型の報告数に変化は見られていませんので、市内の流行状況については大きな変化は無く、殆どが AH1pdm によるものと思われます(図3)。
- 入院サーベイランスは、11 月には 251 件ありましたが、12 月 1 日から 21 日までには 60 件でした。男女比は 2 対 1(図4)、85% が 20 歳未満でした(図5)。20 歳以上は全員基礎疾患がありましたが、20 歳未満は、半数が基礎疾患はありません(図6)。脳症、人工呼吸器使用、集中治療管理といった重篤な状態となった方は、1 歳から 12 歳の間に 6 人(脳症 2 人、人工呼吸器 3 人、集中治療管理 4 人:重複あり)見られました。
- 年齢層別推移では、第 43 週を境に、10 歳代前半に多い状況から、10 歳未満に多い状況になっています(図7)。
- 平成 21 年第 2 週～第 11 週の季節性インフルエンザと第 40～49 週の AH1pdm が主の時期について、年代別患者流行状況を比較すると、10 歳代では、季節性インフルエンザが男性 0.4、女性 0.3 であったのに対し、AH1pdm は男性 5.7、女性 4.8 と高値でした。ただし、年齢構成で補正すると、男女差は特に認められません。従来の季節性インフルエンザに比べて 10 歳代の患者が多いことが、今シーズンの AH1pdm の特徴と考えられます(図8)。
- 第 40～49 週の定点当たりの報告数について、行政区毎の人口構成の違いを考慮するために、平成 21 年 1 月 1 日の横浜市全体の人口を基準とした年齢調整(標準化)を行いました。例えば、西区は定点当たりの報告数は男女とも低めですが、標準化比は、1.1 と、ほぼ横浜市全体の流行と同程度とみなせます(図9、図10)。今後、市内の正確な流行状況の把握のために、感染症サーベイランスの解釈の調査研究が要されます。
- 今まで行った遺伝子解析では、AH1pdm 全数にアマンタジン耐性を示唆する変異を認めました。プロトンポンプである M2 蛋白の、脂質二重膜の膜貫通部に対する変異が一箇所のみ認められています(図11)。4 例はオセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異があり、国の検査で 4 例ともにオセルタミビル耐性が確認されています。強毒化を示唆する遺伝子変異はまだ見つかっていません。今後も、薬剤耐性や強毒化等遺伝子レベルでの変異の監視を強化していく必要があります

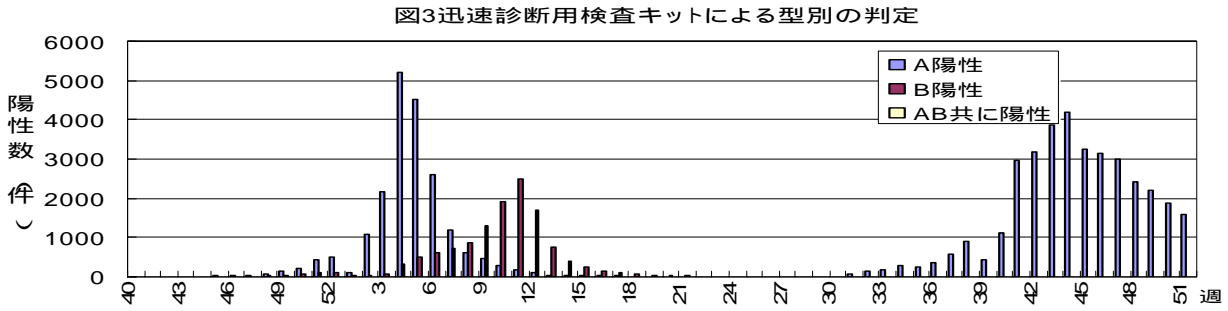
1 市内 145 か所(小児科 88 か所含)の定点医療機関からの報告(図1)



2 病原体検出状況(図2)



3 迅速診断キット結果(図3);今シーズンはA型が趨勢を占めますが、常にB型が1桁程度報告されています。



4 入院サーベイランス(12月1日から21日まで:図4~6)

図4 性別入院数(N=60人)

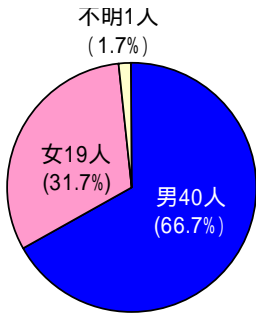


図5 年代別入院者数(N=60人)

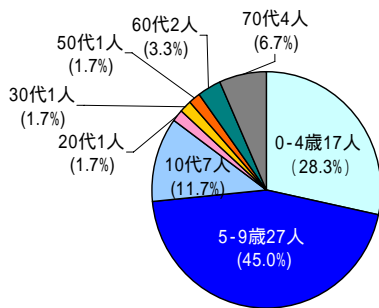
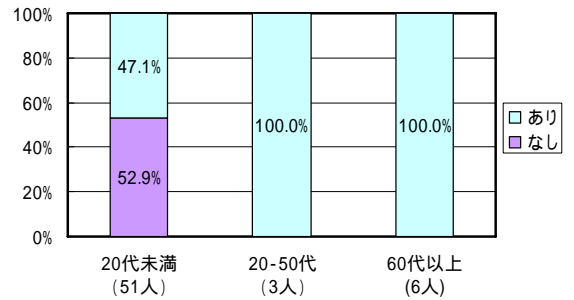
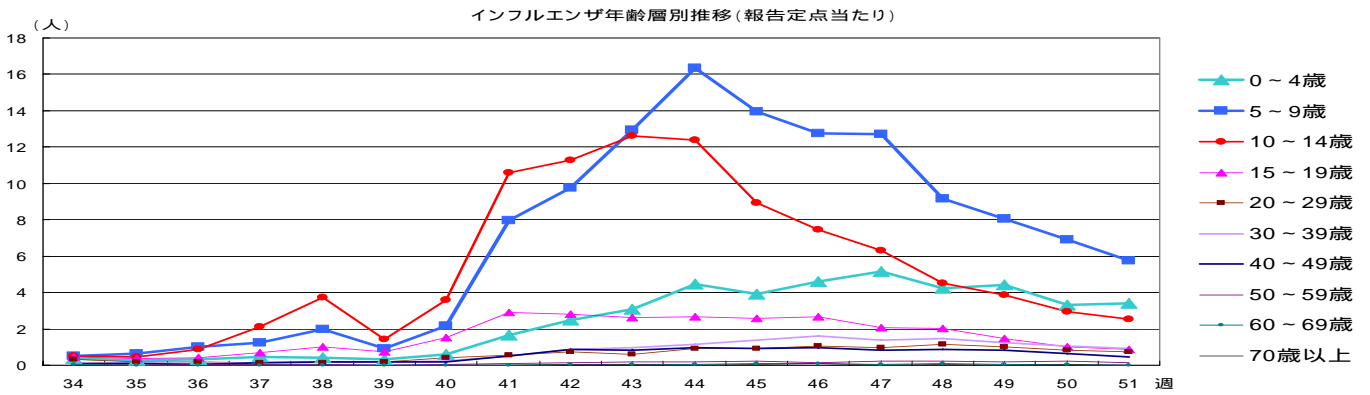


図6 年代別基礎疾患の有無(N=60人)

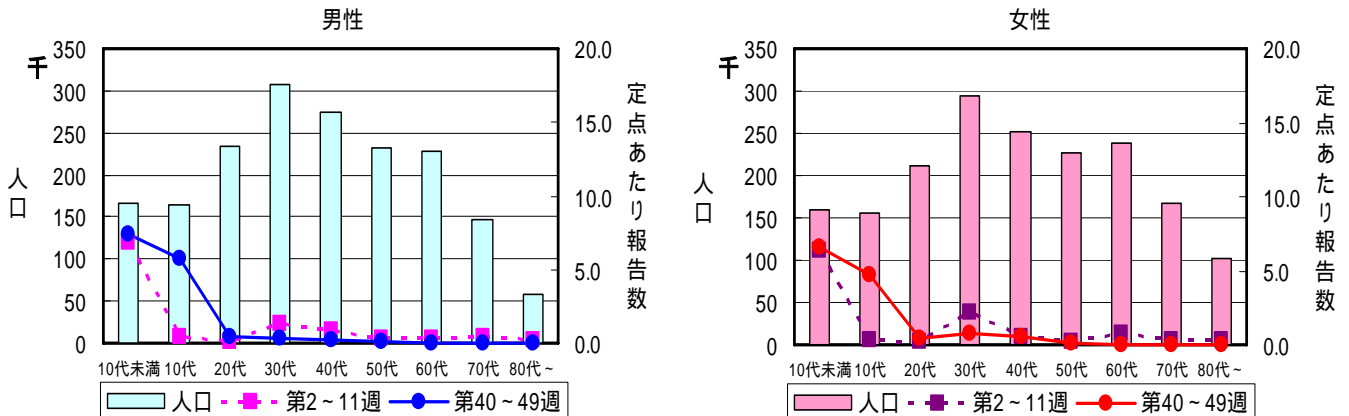


5 年齢層別推移(図7)



6 前シーズンとの比較(図8)

図8 インフルエンザの性・年齢階級別定点あたり報告数(平成21年)



7 区別の流行状況(第40～49週)

表1 区別の定点あたりの報告

男	区名	定点あたり報告数	女	区名	定点あたり報告数
1	緑	25.3	1	緑	21.5
2	泉	20.5	2	瀬谷	20.3
3	瀬谷	20.4	3	泉	18.9
4	都筑	18.5	4	都筑	16.1
5	磯子	16.4	5	磯子	15.6
6	港北	15.4	6	港北	15.0
7	栄	15.2	7	戸塚	13.6
8	戸塚	14.4	8	神奈川	13.4
9	青葉	14.2	9	栄	13.3
10	旭	14.1	10	青葉	13.0
11	神奈川	14.1	11	旭	12.8
12	港南	13.1	12	港南	12.4
13	保土ヶ谷	12.2	13	保土ヶ谷	11.2
14	南	12.0	14	南	11.1
15	金沢	11.4	15	金沢	10.7
16	西	8.3	16	西	8.3
17	鶴見	7.9	17	鶴見	7.8
18	中	4.8	18	中	4.2
参考)	横浜市	14.2	参考)	横浜市	13.2

表2 標準化比

男	区名	標準化比	女	区名	標準化比
1	瀬谷	1.9	1	瀬谷	1.9
2	泉	1.6	2	泉	1.6
3	緑	1.4	3	緑	1.5
4	磯子	1.4	4	磯子	1.4
5	栄	1.1	5	西	1.1
6	南	1.1	6	栄	1.1
7	西	1.1	7	南	1.0
8	旭	1.0	8	港北	1.0
9	港北	1.0	9	旭	1.0
10	都筑	1.0	10	神奈川	0.9
11	神奈川	0.9	11	都筑	0.9
12	戸塚	0.9	12	戸塚	0.9
13	保土ヶ谷	0.9	13	保土ヶ谷	0.9
14	港南	0.8	14	青葉	0.8
15	青葉	0.8	15	港南	0.8
16	金沢	0.8	16	金沢	0.8
17	鶴見	0.5	17	鶴見	0.5
18	中	0.5	18	中	0.5

〔算出方法〕

横浜市の年齢階級別罹患率を各区の人口に適用して、期待報告数を求め、実際の報告数と比較する。

- 1 横浜市における第40～49週の報告数を性・年齢階級別に合計し、平成21年1月1日付の推計人口で割る (=【横浜市の罹患率】)。
- 2 1で求めた【横浜市の罹患率】に区の性・年齢階級別人口を掛け、足し合わせる (=【期待報告数】)。
- 3 区の実際の報告数と、2で求めた【期待報告数】の比を求める (=【標準化比】)。

8 遺伝子解析:アマンタジン耐性変異(図11)

[GENETYX-MAC: Multiple Alignment] 2009 AH1pdm 横浜分離株 M2アミノ酸

```

Date      : 2009.12.16                26 31
A/California/04/2009 M2aa  1 -----PTRSEMECRCSDDSPLVIAANIIGILHLILWITDRLFFKCIYRRFKYGLKRGPGSTEGVPE 61
A/Yokohama/1001/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1009/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1002/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1003/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1004/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1006/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1007/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1010/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1011/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1012/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1014/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1015/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1019/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1016/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1025/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1021/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1026/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1017/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1023/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1027/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1018/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1035/2009 M2aa  1 -----
A/Yokohama/1039/2009 M2aa  1 -----
****
  
```

アミノ酸解析した23株はS31N変異のある株:M2蛋白の膜貫通部に対応する遺伝子変異では、一箇所にのみ変異が認められています。

市内の状況については、 <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

全国の状況については、 <http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/>

全国の集団かぜの状況については、 <http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/infreport/report.html> をご覧ください。

【お問い合わせ先】

横浜市健康福祉局健康安全課

TEL045(671)2463

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL045(754)9816

同

検査研究課ウイルス担当

TEL 045(754)9804